

わが街・わが地域の遺跡・史跡を訪ねる（10）

—新木野二丁目の気象台記念公園と布佐陣屋—

我孫子市史研究センター いじろ 飯白 和子

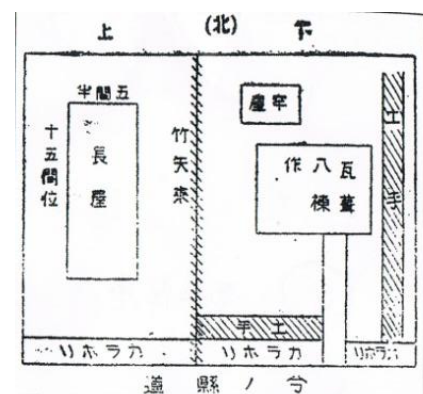
「遺跡・史跡を訪ねる」も最終回を迎えました。今回は、新木野二丁目の国道356号沿い北側にある「我孫子市立気象台記念公園」とその付近の史跡についてのお話です。

江戸時代、この気象台記念公園から布佐平和台病院の駐車場付近一帯は布佐村に属し、徳川幕府の御料林とされ「御林」と呼ばれていました。ここに幕府は、慶応3年（1867年）に悪化する治安の取締りと、地方支配の強化をはかるため「布佐陣屋」を築きました。今は土塁の跡を残すだけです。

●布佐陣屋跡 万延元年（1860）3月3日、大老井伊直弼が桜田門外で尊王攘夷を唱え



気象台記念公園



「布佐陣屋」(『東葛飾郡史より』) 幕府は浮浪人の取り締まり強化のため、高崎（群馬県）と布佐に陣屋を設けました。

る水戸・薩摩浪士に暗殺されて以降、特に治安が悪化がしたといえます。元治元年（1864）3月には、水戸藩士の尊王攘夷派が天狗党を結成し筑波山で拳兵、関東一円の村々の豪商・豪農に軍資金を強要するなどしています。花野井村（柏市）の吉田甚左衛門は300両、布施村（柏市）の七郎兵衛は90両、同村の半平は60両の献金を要求され、これを柴崎村（我孫子市）の川村磯右衛門（源兵衛・前回の相馬霊場の逆詣りで登場した源兵衛）が筑波山まで持参しています。この時、源兵衛も米15俵・味噌1樽を献納しています。天狗党の乱は9ヵ月後に鎮圧されますが、幕府は浮浪人の取り締まり強化のため、高崎（群馬県）と布佐に

慶応4年（1868）正月の鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争）で幕府軍が負け、4月11日には江戸城が無血開城され江戸幕府が瓦解します。布佐陣屋には、今度は官軍側の熊本藩の兵士が進駐してきます。近村から農兵を募集し治安の維持に当りました。「隊長は新木の田口久太夫氏なりき」(『東葛飾郡誌』)とあります。農兵は、慶応4年（9月8日に明治に改元）11月1日に解隊されました。

●須藤力之助の碑 元治元年の天狗党の乱のようなことが起きると、近村の村々でも一致協力して自衛策を講じることになります。湖北地区の村々でも同年9月議定取り決めをしています。中峠の天照神社で「竹槍鳴物其の他の武器を用意して（略）浮浪防禦の手段を約せり」、1番掛けした者には褒美金5両、2番掛けには金3両、3番掛けには金1両2分差し出すとし、万が一の時の保証のことなども取り決めていきます。「此の規約に基き村民の斬殺せし浮浪人は、岡発戸山にて3名。沖田村にて1名（略）」(『湖北村誌』)とあります。

須藤力之助は佐倉藩の藩士で、小金（松戸市）から2人の追手がかり、青山（我孫子市）から佐倉に向かう途中に討たれたということです。行年24才。その霊を弔うため建てられました。新木野四丁目の薬師台公園下の駐車場脇にひっそりと建っています。



須藤力之助の墓

●布佐気象送信所（気象台記念公園） 布佐気象送信所は、第4代気象庁中央気象台長の岡田武松（布佐出身、生家跡地が現在の近隣センターふさの風）により、昭和13年6月19日に開設され、初代所長は、後に東北大学教授となる山本義一や藤原寛人（作家新田次郎）などが勤務しています。平成11年3月に閉鎖し、跡地は気象台記念公園として整備されました。